

# 現場経験を振り返り実地試験攻略

今回は、1級・2級施工管理技術検定の実地試験について、解説していく。

学科試験の問題は四肢択一式（マークシート式）であり、知識が曖昧でも書いてある問題文からポイントを思い出して、正解が可能である。また、解答さえすれば運よく正解になることもある。しかし、実地試験は記述式のため、正確な知識がなければ解答することはできないため、正解するという事はほぼない。

## ■施工経験記述で点を取る

実地試験は、単純な説明記述問題などのほかに「施工経験記述」と呼ばれる問題が出題される。ここで初めて施工経験記述という問題を目にした方も多いのではないか。この問題は施工管理技術検定を象徴する特殊な問題であり、施工経験記述の攻略なくして実地試験の合格はないと言っても過言ではない。

施工経験記述の内容は、過去の工事現場における自身の経験を記述させ、実務経験の有無と施工管理能力を判定するものである。実

記述文を自身の経験に基づいて作成	・忘れにくい、覚えやすい ・試験内容の変化に対応しやすい ・具体性もあり、高得点が期待できる
参考書などの記述文を丸暗記	・忘れやすい、覚えにくい ・問われ方が少しでも異なると書けない ・そもそも不合格である

際の経験に基づいた記述が要求され、事実と相違していると判断された場合には、不合格となる可能性が高い。しかし、経験記述は配点が高い問題と考えられるので、解答できれば試験を優位に進めることが可能となる。

## ■経験記述は事前準備が必須

経験記述の具体的な出題形式は科目によって異なるが、『施工計画』『工程管理』『品質管理』『安全管理』『合理化』『環境対策』などのテーマが与えられ、その項目に合った自身の現場経験を記述する形式が主である。現場が多い少ないにかかわらず、突然その場で経験を思い出し、一定水準の内容を記述するのは困難だろう。事前準備は必須であるこ

とを肝に銘じて学習してほしい。

## ■専門の講師など第3者の添削が合否を左右する

施工経験記述の答案作成にあたり、参考書などの例文を丸暗記しようとする受験生は少なくない。しかし、丸暗記は少しでも問われ方が変わると応用がきかず、書けないことも多い。準備は必要だが得点を見込むことができ、現場経験があれば書ける問題であるので面倒と感じても自身で作成して試験に臨んでいただきたい。また、自分自身が作成した経験記述であれば試験会場でも忘れする可能性も低く、覚えることも容易である。第一、例文などを転記した場合は、その時点で不合格である。

ただ、事前に準備が必要といっても何を準備すればよいかかわからず、無駄に時間を浪費する受験生も少なくない。CICの受験対策講座でも専門講師が試験傾向や施工経験記述の書き方・添削指導も行っている。ここで、経験記述の不安を解消してほしい。

資格取得の視点から  
④ 見つける建設業

# 2020年3月31日付

# 建設通信新聞 第16面 (最終面)